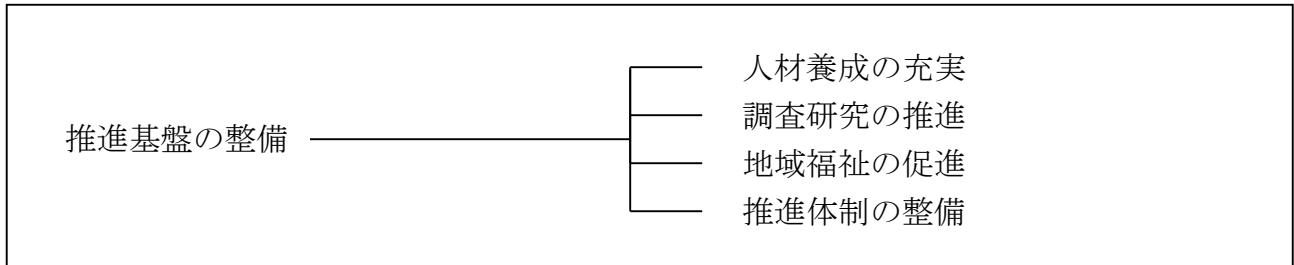


8. 推進基盤の整備

計画を確実に推進していくためには、そのための推進基盤の整備と確立が必要となります。必要な人材の確保や養成、関係機関や団体等との連携体制の確立、福祉ニーズ等の的確な把握、計画実施状況の定期的な点検などに取り組みます。



(1) 現状と課題

この分野の主要な課題は、次の4つでした。

- ・人材養成の充実
- ・調査研究の推進
- ・地域福祉の促進
- ・推進体制の整備

1) 現状

①人材育成の充実

- ホームヘルパーの初任者研修を三重県社会福祉協議会や民間の事業所等が実施しています。また、近年の福祉の担い手不足の現状を踏まえ、国では報酬の見直し等の検討が行われています。
- ボランティア育成のためのボランティア養成講習会を名張市社会福祉協議会で実施しています。

②調査研究の推進

- 名張市共生地域デザイン会議においてニーズ把握、地域課題の抽出等を行い、「第5期名張市障害福祉計画」に盛り込み施策に反映しています。
- 障害当事者に寄り添った福祉のまちづくりを推進するため、「名張市障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちづくり条例」の施行に合わせ、2016（平成28）年から、障害当事者に、名張市障害者施策推進協議会に参画いただいています。

③地域福祉の促進

- 本市では地域づくり組織を中心に地域に合った福祉のまちづくりを進めており、各地域で民生委員・児童委員や地域づくり組織、ボランティア等多くの人や団体の協力のもと、「地域ささえあい」による高齢者や障害者などの見守りが行われています。

○県内地域の共通課題については、県や伊賀圏域障がい福祉連絡協議会など、広域の関係機関での協議、連携を図っています。

④推進体制の整備

○本計画が有効に実施されているか、あるいは諸情勢の変化のために見直しが必要になっていないか等の点検・評価については、名張市共生地域デザイン会議と名張市障害者施策推進協議会の小委員会で意見交換を行い実施しています。

2) 基礎調査結果

①人材養成の充実

・専門分野の人材の確保と養成

○自由記載では、一般市民より「福祉従事者の低賃金や重労働を改善しなければ良い人材が集まらない」という意見がありました。

②調査研究の推進

・福祉ニーズ等に関する調査（身の周りの支援をする人）

○「身の周りの支援をする人」について一般市民に聞いたところ、「家族が中心となり公的に支援する」と答えた人が80.0%と一番多い結果となっており、次に「できるだけ家族が介助」と答えた人が9.6%、「できるだけ公的に支援」と答えた人が7.1%となっています。

○同じ質問を中学生にしたところ、「家族が中心となり公的に支援する」と答えた人が63.3%と一番多く、次に「できるだけ家族が介助」と答えた人が20.5%、「できるだけ公的に支援」と答えた人が10.8%となっています。

○高校生でも中学生と同様に、一番多かったのが「家族が中心となり公的に支援する」という回答で67.8%、次に「できるだけ家族が介助」という回答で21.8%、「できるだけ公的に支援」が7.3%となっており、一般市民の回答と中学生・高校生の回答では割合に若干の差異があるものの、同様の傾向となりました。

・福祉ニーズ等に関する調査（障害者福祉施策が目指すべき方向）

○「障害者福祉施策が目指すべき方向」について一般市民に聞いたところ、「障害者が一人で自立して暮らせるように」と答えた人が38.4%、次に「障害者とその家族と一緒に暮らせるように」と答えた人が35.4%、「障害者が福祉施設で暮らせるように」と答えた人が15.9%となっています。

○同じ質問を中学生にしたところ、一番多かったのが「障害者と家族と一緒に暮らす」という回答で55.5%、次に「障害者が福祉施設で暮らす」で20.8%、「障害者が一人で自立して暮らす」が18.8%となっています。

○高校生でも中学生と同様に、「障害者と家族と一緒に暮らす」と答えた人が55.9%と一番多く、次に「障害者が福祉施設で暮らす」と答えた人が24.1%、「障害者が一人で自立して暮らす」と答えた人が16.1%となっており、一般市民の回答

と中学生・高校生の回答では違う傾向となりました。

・当事者等からの意見の施策への反映

- 自由記載では、障害者本人から「基礎調査のアンケート結果をもとに、障害者目線で各施策の整備をしてほしい」という意見がありました。
- 介護者の意見では、「障害者の家に出向き介護者に要望を聞きに来てほしい」「アンケートの集計結果に基づき、優先順位を付けてタイムスケジュールを公表し推進してほしい」という意見がありました。
- 一般市民の意見では、「障害者が本当に困っていることをもっときめ細やかに調査し対処すべき」「基礎調査のアンケートが本当に活かされるのかも疑問を感じており、何らかの成果を市民に示してほしい」という意見がありました。
- 「その他」の意見では、「財源は税金であり市財政に見合った施策を進めてほしい」や「障害者福祉を考えるあまり健常者の権利や行為が制限されることのないように配慮して、障害者・健常者双方が住みよいまちを目指してほしい」等の意見がありました。

3) 課題

この分野では、次の4つを主要な課題とします。

- ・人材養成の充実
- ・調査研究の推進
- ・地域福祉の促進
- ・推進体制の整備

(2) 施策の目標

1) 人材養成の充実

- ホームヘルパー等、各専門分野でサービスを担当できる人材の確保と養成を図るとともに、それぞれの専門性をさらに高めるための研修を充実させます。
- 名張市社会福祉協議会が進めているボランティア養成事業等を活用し、ボランティア活動の推進を図ります。

2) 調査研究の推進

- 実効ある障害者施策を推進していくために、障害者実態調査に係るアンケートをはじめとして、福祉ニーズ等の把握に努めるとともに、各種福祉サービス等の情報の周知状況や利用状況の把握に努めます。
- 名張市障害者施策推進協議会や名張市共生地域デザイン会議のほか、各種審議会等に障害者が直接参加して意見を述べる機会を設け、障害者の意見が施策に反映されるよう努めます。

3) 地域福祉の促進

- 地域の課題やニーズについては、支援者だけでなく、住民を含めた地域全体で共通認識を持ち、協働して課題の解決に取り組むことが重要です。そのため、本市の誇る地域力を生かした地域の社会資源や仕組みを基盤として、地域社会に多様なつながりが生まれやすくするための環境整備を進め、高齢者や障害者などの各分野を横断した連携や相談支援体制を推進するとともに、地域住民や地域の多様な主体が参画し、ともに支え合う地域共生社会の実現に努めます。
- 地域福祉を促進するためには、地域資源だけでは対処が困難な課題にも対応が必要であることから、福祉ネットワークの広域化を図ることも重要です。そのために、国や県との連携体制を整備するとともに、伊賀圏域障がい福祉連絡協議会を活用しながら、伊賀市との協力・連携による機能分担を図り、広域福祉ネットワークの充実に努めます。

4) 推進体制の整備

- 障害者施策の推進に当たっては、高齢者施策との融合・連携について検討していく必要があります。そのため、名張市障害者施策推進協議会と名張市共生地域デザイン会議の協働による会議を推進します。
- 本計画の進捗状況の確認・評価等について、定期的に名張市障害者施策推進協議会が実施します。